

共に働く1

このまちで働く外国人技能実習生とその雇用主。
それぞれの思いを聞きました。



～家族のような気持ちで～

大葉農家×中国人技能実習生

「家の人も、近所の人も皆さん優しくて親切。ここでは困ることは何もありません」と話してくれたのは、中国遼寧省から来た闾新新さん。来日3年目の彼女は、一緒に働く4人の実習生のお姉さんの存在です。闾さんは、10歳の娘と離れ来日しました。「寂しいけれど、いつでも電話で話せるから大丈夫」と笑います。

実習生たちの主な仕事は、大葉を摘んで大きさをそろえてパック詰めをする作業です。慣れた手付きで、手早く葉を摘んでいました。

言葉も文化も異なる場所に来て、生活していく苦労はないのでしょうか。

「日本語の勉強は少し大変です」と苦笑い。「一生懸命働いてお金を貯めたら、帰って大きな家を建てたいです」と話す闾さんは、大変なこともあるようですが、夢の実現のために日々懸命に働いていました。

雇用主の伊藤さんは、実習生に気持ちよく働いてもらうため、個室やインターネット環境を整備して、仕事以外の時間も快適に過ごせるよう配慮していました。

「プライベートの時間を安心して過ごせることで、仕事にも集中できると思うんです。家では、実習生を家族だと思って接しています」そう話す伊藤さんと実習生の笑顔からは、確かに家族のような温かな関係性が伝わってきました。

実習生たちの休日の楽しみは、中国の調味料を使って、麻婆豆腐に青椒肉絲、餃子など故郷の料理を作ること。伊藤さん宅にもお裾分けがあるそうです。

「彼女たちのおかげで、異なる文化を体験できたり、ニュースでは取り上げられないような外国の話を知ったりすることができます。知らない文化や考え方に触れるのは興味深いです」